

# 第 1 回

## 島田市まち・ひと・しごと創生市民会議

令和 5 年 8 月 28 日

### 会議要録

# 令和5年度 第1回 島田市まち・ひと・しごと創生市民会議 会議要録

会議体の名称	令和5年度 第1回 島田市まち・ひと・しごと創生市民会議	
事務局(担当課)	島田市市長戦略部戦略推進課	
開催日時	令和5年8月28日(月) 10:00~11:45	
開催場所	島田市役所会議棟1階大会議室	
議題	<協議事項> (1)島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の評価・検証について (2)島田市デジタル田園都市構想総合戦略の策定について	
出席者	創生市民会議 構成員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・島田市自治会連合会常務理事 池ヶ谷 孝</li> <li>・島田青年会議所理事長 松山 寿明</li> <li>・(株)FM島田代表取締役 飯塚 誉之</li> <li>・島田市小中学校PTA連絡協議会会長 天野 大輔</li> <li>・NPO法人クロスメディアしまだ理事長 大石 歩真</li> <li>・島田商工会議所副会頭 鈴木 國近(代理出席 専務 今村 重則)</li> <li>・島田市商工会副会長 森下 真琴</li> <li>・島田市観光協会理事 西村 孝明(欠席)</li> <li>・島田市農業経営振興会会長 鈴木 聡(欠席)</li> <li>・金谷高等学校校長 山田 正訓</li> <li>・島田市校長会会長 山口 泰弘</li> <li>・島田掛川信用金庫地方創生部長 鈴木 康司</li> <li>・島田榛北地区労働者福祉協議会会長 樋熊 敦志(欠席)</li> <li>・島田公共職業安定所所長 松永 進</li> <li>・静岡県立大学国際関係学部1年 鈴木 実幸</li> <li>・静岡県立大学食品栄養科学部3年 瀬川 遥奈</li> <li>・静岡県立大学経営情報学部3年 八峠 友香</li> <li>・島田樟誠高等学校2年 梅原 利季</li> <li>・島田樟誠高等学校2年 野地 真実</li> <li>・島田市長 染谷 絹代</li> </ul>
	オブザーバー	静岡県中部地域局長 鈴木 史朗
	市関係者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・島田市副市長 牛尾 伸吾</li> <li>・島田市教育長 山中 史章</li> <li>・島田市市長戦略部長 佐藤 修</li> </ul>
	事務局	島田市市長戦略部戦略推進課 課長 中村 広史      課長補佐 小野 晶規 係長 大石 一晴      主査 杉山 知史 主事 牧野 匡成

配付資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・島田市まち・ひと・しごと創生市民会議構成員名簿</li> <li>・島田市まち・ひと・しごと創生市民会議席次表</li> <li>【資料1】島田市まち・ひと・しごと創生市民会議 設置要綱</li> <li>【資料2】令和4年度第2期島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略評価書(案)</li> <li>【資料3】島田市デジタル田園都市構想総合戦略の策定について</li> <li>【資料4】令和5年度島田市総合計画市民意識調査(速報値)</li> <li>【資料5】第2期島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略評価書及び市民意識調査からの現状と課題</li> <li>【資料6】第2期島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 概要</li> <li>【資料7】島田市デジタル田園都市構想総合戦略 概要(案)</li> </ul>
------	--

<開会の挨拶>

○市長戦略部長

皆様、御多用の所、御出席を賜り、誠にありがとうございます。  
定刻となりましたので、ただ今から、「令和5年度第1回島田市まち・ひと・しごと創生市民会議」を開催させていただきます。  
本日の司会を務めさせていただきます島田市市長戦略部長の佐藤と申します。よろしく願いいたします。  
それでは、はじめに、染谷市長から、ご挨拶を申しあげます。よろしく願いします。

○市長

皆様、おはようございます。  
本日は大変お忙しいところ「令和5年度第1回島田市まち・ひと・しごと創生市民会議」に御参集いただきまして誠にありがとうございます。  
また、本会議から、新たにメンバーに加わられた皆さま方、どうぞよろしく願いいたします。  
この会議は、本市の特長を生かし持続可能な社会を創生する、まさに、官民が一体となって地方創生の実現に向けて歩みを進めていくことを目的として設置された会議であります。  
平成27年5月に第1回会議を開催し、同年10月には、「島田市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」及び「総合戦略」を策定いたしました。この計画では、2060年における島田市の目標人口を8万人に定めて、5年間の計画期間における主要な施策を位置付けております。  
毎年度、取組の進捗状況について評価・検証を行っており、この市民会議の構成員の皆様からも御意見をいただきながら、計画を推進してまいりました。  
その結果、総合戦略策定前に6万人程度であった2060年の将来推計人口が、最新の推計では、約2,300人上昇しております。  
さらに令和2年度からは、地方創生の実現をより深化させるために、「第2期総合戦略」に基づき取組を始めております。  
国は、昨年12月に、「第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略」を改訂して、「デジタル田園都市国家構想総合戦略」を策定いたしました。  
この「デジタル田園都市国家構想総合戦略」は、デジタルの力を活用して、地方創生を加速化・深化させ、「全国どこでも誰もが便利で快適に暮らせる社会」を目指すものであります。  
本市においても、国の「デジタル田園都市国家構想総合戦略」を勘案し、総合戦略の改訂の作業を進めております。  
「デジタル田園都市国家構想」は、地域経済や社会において、デジタルの力を活用して課題の解決や魅力向上を図り、誰もが豊かさを実感できるような、そんな社会になることが期待されております。  
本日の会議では、令和4年度実績に基づく総合戦略評価書（案）と、今年度改訂を予定しています島田市デジタル田園都市国家構想総合戦略の概要（案）について、御意見を頂戴したいと思っております。  
限られた時間ではありますが、皆様から忌憚のない御意見や御提言

をいただき、本日の会議が有意義なものになりますよう皆様方のお力添えをお願い申し上げて、私の挨拶とさせていただきます。  
本日どうぞよろしく願いいたします。

- 市長戦略部長 ありがとうございます。  
続きまして、本年度初めての市民会議でありますので、自己紹介をお願いしたいと存じます。

(会議出席者自己紹介)

- 市長戦略部長 ありがとうございます。  
なお、本日出席予定となっております島田市観光協会 理事 西村孝明様は少し遅れるという御連絡がございます。  
さらに、島田市農業経営振興会 会長 鈴木 聡様と、島田榛北地区労働者福祉協議会 会長 樋熊 敦志様は、所用により欠席となっております。  
それでは、次第に沿って、早速、議事に入っていきたいと思っております。  
議事を進めるにあたりまして、「島田市まち・ひと・しごと創生市民会議設置要綱」第3条の規定に基づきまして、議長を染谷市長をお願いしたいと思っております。  
よろしく願いいたします。

<議事（協議事項）(1)>

- 市長 それではしばらくの間、議長を務めさせていただきます。  
皆様どうぞ、よろしく願いいたします。  
早速、議事に入ります。  
本日の議事は、島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略に関する協議事項が2点ございます。  
まず、はじめに、協議事項の(1)「島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の評価・検証について」事務局から説明をお願いします。

- 事務局 **資料1・2**の説明  
「島田市まち・ひと・しごと創生市民会議 設置要綱」により、市民会議の趣旨、所掌事務の説明  
総合戦略の成り立ちと、第2期総合戦略の令和4年度実績による評価結果について説明  
・ 島田市まち・ひと・しごと創生人口ビジョンの概要説明  
・ 島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の概要説明  
・ 評価・検証（PDCAサイクル）の説明  
・ 評価結果の説明

- 市長 ただいまの説明について、質疑、御意見等ありましたら、お聞かせください。

○A 構成員 評価書（資料 2）の 5 ページで「「実質化された人・農地プラン」に位置付けられた担い手の数」は S 評価なのに対し、類似である「認定農業者数」が D 評価になっている。  
こういったところについて、市としてどのように受け止めているか。

○事務局 人・農地プランについては、令和 3 年度中に取組が大きく進んだことから高い評価になっていると捉えていますが、一方で、認定農業者数は残念ながら離農者が増えているため、評価が下がってしまっております。  
農業の分野においては、離農者が増えており大変な状況が続いていると認識しています。  
引き続き、認定農業者数を増やすような取組を進めていかなければならないと考えています。

○A 構成員 島田商工会議所でも経営者が高齢で廃業される方がいて、農業分野も同じだと思われる。  
指標の「「実質化された人・農地プラン」に位置付けられた担い手の数」は累計となっているが、減少しているのはなぜか。

○事務局 担当課にも確認したいと思いますが、担い手が減少しているため数値が減少していると捉えていますが、改めて返答させてください。  
※担当課に確認したところ、指標は累計ではなく年度末現在の数値であり、前年度に比べて 12 件減少していました。

○B 構成員 評価書（資料 2）の 4 ページにおいて、「評価可能な指標 11 項目のうち」とあるが、11 項目の指標とはどれを指しているのか。

○事務局 評価書（資料 2）の 5 ページに基本目標 1 の指標が 13 項目記載されています。  
令和 4 年度の結果がまだ公表されていない 2 項目を除き、残りの 11 項目について評価しています。

○市長 必要に応じて今後も評価書を修正し、後日皆様にお示しさせていただきます。

<議事（協議事項）(2)>

○市長 協議事項の(2)「島田市デジタル田園都市構想総合戦略の策定について」事務局から説明をお願いします。

○事務局 資料 3～7の説明  
島田市デジタル田園都市構想総合戦略の策定について説明  
・策定の趣旨、考え方  
・名称（案）  
・計画（対象）期間と今後の総合戦略のあり方  
・令和 5 年度島田市総合計画市民意識調査（速報値）

- ・ 第2期総合戦略評価書及び市民意識調査からの現状と課題
- ・ 島田市デジタル田園都市構想総合戦略の概要版（案）について

- 市長 ただいまの説明に対して、御意見、御質問、御提案、様々な御感想でも構いません。御自由に御発言をお願いいたします。
- C 構成員 島田市が取り組んでいる LINE について、島田市の人口以上の登録があるということで、焼津や藤枝の方も登録しており、非常に効果的なことをされたと思っている。  
島田市からの情報がリアルタイムに入ってきて便利と感じている。  
これから総合戦略を見直すときに、LINE をより高度な、素晴らしいものにしていただきたい。
- 市長 現在の LINE 登録者数は、122,000 人を超えている状況であります。
- D 構成員 行政組織として仕方がない部分であるが、評価に当たって分野ごとに縦割りになっている。  
NPO 法人で抜里においてゲストハウスを営業しているが、コロナ禍が明けたこともあり、夏は宿泊客が多い。  
観光事業ではあるが、人が来ることで中山間地域のまちづくりの推進になっていく。そこで農業体験もできるため、将来的に就農者になる可能性もあり、これが農業施策にもつながっていく。  
評価上仕方がないが、取組自体は横ぐしを刺していけるような、1つの取組からいろんな効果が発生していくということができていくと、評価上もいろんな点数がつけていけてお得ではないかと思う。  
包括的にできるようなプロジェクトが実践されていくと良い。
- 市長 いつも課題になるところで、評価の仕方の難しいところでもあります。  
指標を何にするかということでも評価が随分変わってきますので、御意見いただけるとありがたいです。
- E 構成員 静岡県立大学の学生は4～6割が静岡県民で、静岡県に愛着を持っていると感じる。  
静岡県は住みやすく、居心地が良いと感じていると思うので、島田市の取組を積極的に行っていただけると若者の人口流出も減るのではないかと思う。
- 市長 特に若い女性が静岡県に残っていただくというのは、県を挙げての課題となっています。
- F 構成員 市役所の庁舎が新しくなるが、情報管理システムがデジタル化されていると伺っている。  
目的としては業務効率化であるが、それは市民にとっても職員にと

ってもメリットである。

商工会もデジタル化については、独自で施策やサポートを行っている。

国が進めているように、デジタル化によって人口が減っていく中で、機械に任せられることをいかに任せていくか。人間は機械に任せられない施策を考えたり、運営したりしていくことに尽きる。

島田市デジタル田園都市構想総合戦略への改訂に合わせ、自分も勉強しながら取り組んでいきたい。

#### ○G 構成員

基本目標3の施策に「豊かな心と夢や希望をもった子どもを育てる」とある。

未来を担う子どもたちを育むことは、島田市でも大きな視点である。「自分にはよいところがある」（市内小中学校が行う学校評価データ）と回答した児童の割合が達成率評価Dとなり基準値を下回っている。

80.8%はよいところがあると答えているが、2割近くの児童が自分のよいところを感じていない。

また、中学生は72.5%がよいところがあると答えており基準値を上回っているが、27.5%の生徒が自分のよいところを感じていない。2割～3割の子どもたちが自分のよいところを感じていないということは、大きな問題として捉えていかなければならない。

自己肯定感をどれだけ高めることができるのかということになるかと思う。

コロナ禍で3年間教育活動がストップしていた部分があるが、5月8日から新型コロナウイルスが5類感染症に引き下げられた。

自己肯定感を高めるには、多様な体験をすることが非常に重要であり、乗り越える経験を通して、達成感や成就感を得ていく。

その体験は成功もあれば失敗もあると思うが、そこから自分のよさ、友達の良いよさ、自分の頑張りや人と関わることのよさを感じることができる。

子どもが主体的に関わっていくことで自己肯定感を高めていく。

文化、歴史、職業など、体験的な学びは学校の中だけでなく地域に出て行って、皆さんの力を借りながら生の体験ができればと思っている。

デジタルに関して、小中学校においてもGIGAスクール構想により、小中学校には1人1台の端末がある。

市の協力により小学校にも高速通信回線が整備され、端末を1つの文房具として活用しながら、新しい自己調整型の学びをしている。

デジタル田園都市構想総合戦略の中で、子どもたちも効率的・効果的に端末を使いこなしていけるよう、学校の中でも指導していくが、皆さんの力をお借りしながらつながっていければよいと思う。

#### ○H 構成員

焼津市に住んでいるが、中学生のときに地域の祭のボランティアの募集というものはあまりなかった。

しかし、島田市において今年の春頃に地域の祭で年配、子育て世帯、

子どもたちの交流の場があった。

そこでは笑顔があり、家族で楽しめていたのが素晴らしいと感じた。そういったものがあると、先輩方からの意見を聞いたり、子どもが楽しんで交流ができたりするため、将来目指すものを見つける場としても良いと思う。

島田市は学生もボランティアとして動きたいと思える市であると感じているので、そういった施策が増えていくと良いと思う。

○市長

多様な体験を乗り越えるという意見がありましたが、今日、参加していただいているのもその一環であります。

島田市はボランティア活動もお祭も、市の未来を決めるこういった会議に高校生や大学生の皆さんに入っています。

関わっていただくことが将来に向けて、いかに大切なことであるかということも思っていて、なんの関わりもなく県外へ転出した人より、体験を通して地域や行政に関わりを経験した人は、いざ就職や将来住む場所を考えたときに、島田市を思い出し、戻るきっかけにさせていただくと考えておりますので、今後も続けていきたいと思っております。

○I 構成員

コロナ禍でサークル活動がなく、地域のイベントもなかった。

コロナ禍が明け、改めてそういった経験ができていないと感じている。

藤枝市のNPO法人の「Cafe de 寺子屋」というところで、中高生を対象にしたカフェで勉強を教えている。

そういった活動をするのも情報源がないため、デジタル化をする中で、高校生、大学生に向けたイベントの取組を情報発信すると、地域にずっと残ってくれる学生が増えるのではないかと思います。

○J 構成員

女性の若者の転出について考えていたが、若者世代はデジタル化していることが当たり前になっており、将来住むところはデジタルで行政サービスを受けられる市町があれば、当然そちらを選ぶ。

いかにデジタル化が進んでいるかは、若者が住むところを選ぶときに大きな理由になるため、デジタルの施策が進めばよいと考える。

○K 構成員

自発的に体験をすることが子どもにとって大事だという話をお聞きしましたが、私もそう思う。

小学生、中学生のときに農業体験などをさせてもらったが、自分で様々なものに触れることができたのは貴重な経験になっているので、広くそういったものをPRしていけば、自発的な体験が増えていくと思う。

○L 構成員

デジタル田園都市国家構想総合戦略が国から発表されたが、令和4年6月から島田市と協定結んで、地域産業活性化にむけたDX構想に取り組んでいる。

デジタル化によって、企業の課題を解決していこうというものだが、



中小企業は人手不足が深刻な問題となっている。  
それをデジタル化によりカバーしていこうというものである。また、  
高校からも熱い要請をいただき、DXの取組について高校生の発表  
会の機会を来年2月に設けさせていただいた。  
市内3校に出席表明をいただいている。高校生を交えたDXの取組  
をしていきたいと思うので、報告させていただく。

#### ○M構成員

秋に向けて市内の高校生とイベントを企画している。  
積極的に参加していただいております、ひと昔前に比べると学生の意識  
の変化が感じ取られるくらい、すごいなと感じている。  
これはこれまでの施策のおかげと考える。  
この会議にも出席していただいていることは素晴らしいことだと思  
うので、ぜひ継続していただきたい。  
また、評価書（資料2）で「島田市が好きな市民の割合」が上昇し  
ているということだが、「都市の魅力度」は伸び悩んでおり、「島  
田市緑茶化計画の取組について知っている」と答えた市民の割合」も  
下がってきている。  
観光消費単価は多少上がっているが、光熱費やガソリン代を中心と  
した物価の高騰もある。  
財布の紐を緩めるのは難しいと思うが、知恵を絞っていかなければ  
ならないと思っている。

#### ○N構成員

高校生に出てもらふ番組を増やしていきたいと考えている。  
デジタル化については、FMはラジオで聞くというイメージがある  
が、実際にそういった方は少なく、車のラジオで聞いたり、意外と  
スマートフォンで聞けるということを知らなかったり、知っていた  
としても、どうやって聞くのかを知らない方が多い。  
簡単な方法としては、島田市のLINEにメニューがあるので、そこ  
からぜひ聞いていただきたい。  
伊久美や川根などラジオの電波が入らない地域があるので、危機管  
理の関係から危機管理課の会議に同席させていただき、スマートフ  
ォンで聞けるということをしてPRしていきたい。

#### ○O構成員

人口が減少していく中で、新たな企業を誘致するといった場合、新  
たな雇用を生むということは、なかなか人口減少もあり難しいと思  
う。  
ハローワークの事業には、後継者不足で企業が事業をやめていくと  
いう中で、代替わりするときのためのデジタル化や、学び直しのた  
めの助成金制度の推進など、能力・技術を身に着けられない人の後  
押しをしているものもある。  
ハローワークからも、地域に発信をし、商工会議所等のネットワー  
クと連携しながら、国の施策の情報を中小企業や小規模企業に届け  
て活用していただいて、少しでもデジタルの推進につなげていき  
たい。

○市長

情報はあふれているんですが、必要なところがネットワークとしてつながっていれば、もう少し活用の幅が広がるのではないかと思います。

中小企業のデジタル化は、市においても重要課題として様々な補助金等を用意していますが、10年後事業を続けているか分からないといった理由により、なかなか進まないところがあります。

こういったところは公共職業安定所さん、商工会さん、商工会議所さん、島田掛川信用金庫さんのネットワーク等で支援ができれば、そこに市も関わらせていただければありがたいと思っています。

○F 構成員

学校に見学に行くことがあったが、子供たちが普通にタブレットを使って授業を受けている。

それを見たときに隔世の感があると衝撃に似たような感想を持った。若い方にとって、デジタル化は当たり前。

小中学校からタブレット使って授業をしている。

そういった方がこれから地域を支えていくことになる、デジタル化は彼らにとって当たり前のものである。

彼らより上の世代は、デジタル化についていけない人もいる。地域のデジタル化についてサポートし、若い世代の方々に追いつくことが必要なことだと改めて思った。

自分自身もマイナポイントの申請において自分すら苦労したので、自分よりも上の世代は無理ではないかと感じた。

中小企業、零細企業は高齢の方も多いため、デジタル化のサポートは大切な事業になっていくという感想を持った。

○P 構成員

来年4月にふじのくに国際高校が開校する。

この学校の教育方針として、探究学習を推し進め、これを学びの柱として、県の探究モデル校にもなっている。

具体的には、島田市や静岡大学との共同的な学習を進めていくということで、本当に心強く思っている。

暗記をしていくのではなく、自分で課題を見つけてその課題に対して主体的に解を求めていく。

そういった学びがこれからの社会に必要なようになっていく。

そういったところから地域や経済界との協働が生まれて、市内の就職の推進が進んでいくことがあるのではないかと思っている。

デジタル田園都市構想総合戦略の概要（資料7）に、地域ビジョンで「デジタルの力を生かして 笑顔あふれる 安心のまち 島田」とある。

単純なフレーズだがとても大事であり、老若男女に分かりやすく平易な言葉で、しかし核心を突いていて良いと思う。

「誰もがデジタルの力で快適に暮らすための取組の推進」については、教育関係としては大事なことだと思っている。

岸田総理は、「誰一人取り残されず全ての人がデジタル化のメリットを享受できる心豊かな暮らしを実現する」と発言しているが、言葉では簡単だが、「誰一人取り残されず全ての人がデジタル化のメ

リットを享受できる」ようにするというのは、なかなか大変なことである。

ICT教育やタブレットの話があったが、教育に携わる人間が受け持つ部分も大きいと考える。

市民意識調査の回答者について、60歳以上が半数以上になっている。

経年で調査しているので方法を変えるのは難しいと思うが、回答層は分かると思うので、調査をかけるときに、ある程度各年代にバランスよく回答もらえるようにできれば良いと思う。

#### ○事務局

市民意識調査については、年代、性別、住んでいる地域について考慮していますが、60歳以上の回答がどうしても多くなってしまいう傾向があります。

年代を変えていく場合は、別の調査を実施するなど、同じ調査を変えていくのは難しく、そういったことも踏まえて考えていく必要があると捉えています。

今年度の回答率としては、2年前より10%程度上昇しています。

回答率が上昇した理由としては、市民意識調査期間中にお礼状を送って、御回答いただいた方にはありがとうございましたというお礼、まだ回答していない方には回答をお願いしますということで、回答をお願いするものを送ることで、回答率を上昇させています。

全体の回答率についても工夫をしています。

#### ○教育長

島田市の教育の一環として、探究を大事にしていこうとしています。また島田市の特徴として「夢育・知育」ということで、夢を育てる、知を育てるという教育を推進しています。

補助金を交付して、学校が呼びたい先輩や講師を呼び、体験していただくということを行っています。

島田市には様々な先輩方がいらっしゃって、はたちの集いで、話をしていただくことをお願いするんですが、俳優の別所哲也さん、落語の三遊亭遊喜師匠、津軽三味線で世界一になった大塚晴也さん、歌手のLydiaさんや、芸術家の方も多く、国内外にはばたいていった先輩が多くいらっしゃいます。

そういった方の話を聞いていると、中学生の頃の体験が夢に結び付いているということが数多くあり、皆さん島田市が大好きなので、高校生や大学生の皆さんにもそうなっていただいて、教育というものを改めて大切に考えていきたいと感じました。

#### ○市長

私も同じように考えていて、自分の意見が反映された実体験を若い方に感じてもらえる島田市にしてみたいと思います。

まだまだ御意見尽きないところではありますけれども、最後にオブザーバーとして御参加いただいております中部地域局の鈴木局長様から本日の会議につきましての御意見をいただきたいと思います。

○鈴木局長

皆さんのいろいろな意見を聞かせていただき、ありがとうございました。

総合戦略というのは、国が人口の減少を克服するというのをキャッチフレーズに策定されました。

人口減少の克服には2つ方法があり、人口が減ることは確実であるため、少しでも抑制する、人口減少に適応していくことが求められています。

今回については、地方創生にデジタルも付いて、根本的な課題が分からなくなっているところがありますが、様々な手段を活用して、戦略を総動員して推進していくことが重要です。

人口減少対策のうち出生率向上に向けた取組は、雇用創出や交流人口拡大などの施策に比べ、成果が現れにくいですが、決して逃げてはいけない課題と捉えています。

東京は魅力的な仕事があって、観光地としても世界中から人を引きつけており、人口流入が続いていますが、都道府県の中で合計特殊出生率は最低となっています。

若い人を引きつけ、出生率が低いため、人口のブラックホールと呼ばれています。

地方においても人を引きつける施策を行っていますが、引きつけたところで生み育てやすい環境づくりは大事で、地方をミニ東京にしたいと思っています。

島田市は、「子育てするなら島田市」というまちづくりを進めています。

総合戦略もそうですが、総合計画にうたっているのは非常に重要だと考えます。

総合戦略の4つの基本目標の1つに位置付けるのは非常に良いことだと思いますし、これからも続けてほしいと思います。

特に、生まれる前から担当保健師を付けてくれる島田版ネウボラはすごいと感じました。

それに加え、しまいくがデジタルの力を使って様々な情報を提供して、アナログ・デジタルの両方の力を使って、市をあげて子育てをバックアップしていくことはすごいことだと思っています。

総合計画に「子育てするなら島田市」だということを位置付けておりますが、周辺市町だけでなく全国に発信していただきたいと思っています。

そうすれば、島田市に住む人が増えますし、よい取組がほかの市町に広がって、日本全国にとってもいいことだと思います。

「子どもをまんやかに」にした子育てを、計画の真ん中に位置付けていただければと考えます。

○市長

ありがとうございました。

「子育てするなら島田市で」「子どもをまんやかに」ということをキャッチフレーズにしています。

島田市において、結婚している方は平均して2人以上の子供を産んでいます。問題は結婚や、子育てにたどり着くまでのプロセスが

課題であると分析しています。

本日は、皆様からも前向きな御意見、御提案を出していただきまして、とても有意義な意見交換の時間であったと思っています。

本日、皆様からいただいた御意見につきましては、今後のまちづくりにしっかり生かしてまいりたいと思います。

皆様の御協力によりまして、本日の議事につきましては、無事終了いたしました。ありがとうございます。

それでは、会議の進行を事務局へ戻します。

事務局、お願いします。

○市長戦略部長 皆さま、忌憚ないご意見をいただきまして、ありがとうございました。

最後に、次回の市民会議の予定を御案内させていただきます。

本日の次第のその他の欄にも記載がございますが、令和5年11月7日（火）午前10時から、市役所新庁舎3階の大会議室で開催を予定しております。

委員の皆様には、近くなりましたら、改めて連絡させていただきます。

それでは、以上をもちまして、「令和5年度第1回島田市まち・ひと・しごと創生市民会議」を閉会とさせていただきます。

本日は、御多用の中、御出席いただきまして、ありがとうございました。

まだまだ、日中は暑い日が続きますので、お気をつけてお帰りください。

～終了（11:45）